

北海道・三陸沖後発地震注意情報に関する東北大学(災害科学国際研究所)との協働調査

○調査目的

令和7年12月8日に発生した青森県東方沖を震源とする地震では、翌9日に国から初めて「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表され、住民に広く防災対応の注意が呼びかけられた。これを受け、その認知度や防災行動への影響、課題等を客観的に分析し、今後の防災施策につなげるため、県と国立大学法人東北大学との包括連携協定に基づく協働調査として、アンケート調査を実施したものの。

○期 間:令和8年1月13日(火)~1月25日(日)

○対 象:県内住民のうち、ポケットサインを導入し、アンケートアプリに同意している方

○調査方法:アンケートアプリ(デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」内のミニアプリ)

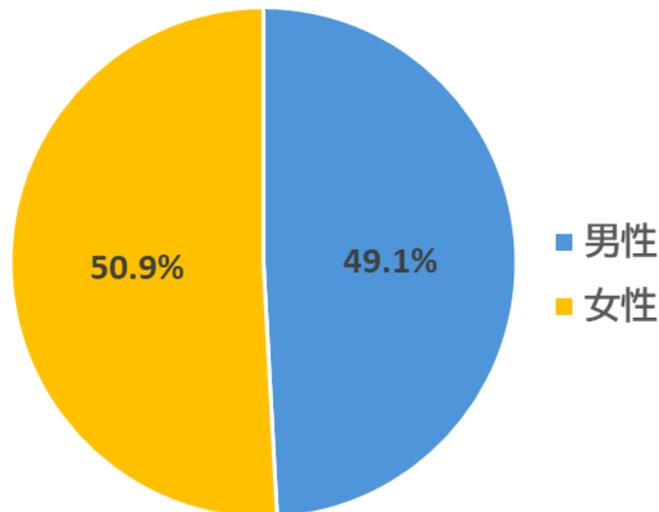
○回答件数:8,892件

○主な調査項目(全17問(30項目))

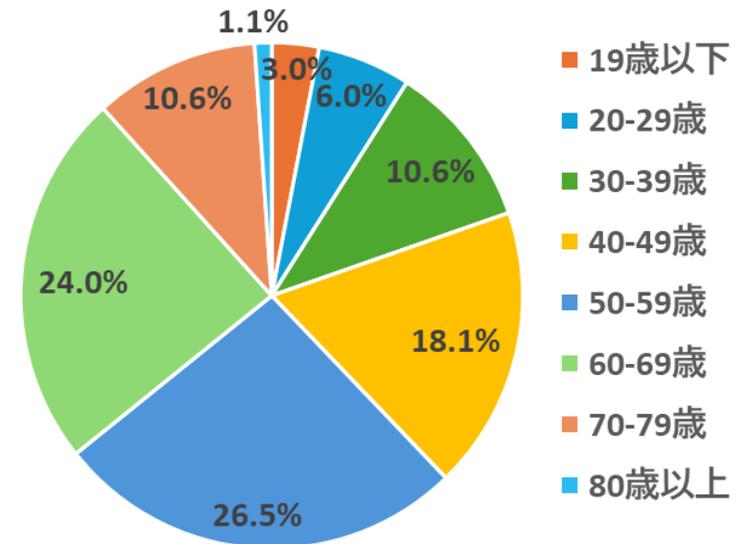
- ・ 注意情報の認知・受け止め
- ・ 具体的な防災行動
- ・ 社会活動への影響・混乱
- ・ 現在の状況

回答者の基本情報

<回答者の男女内訳>



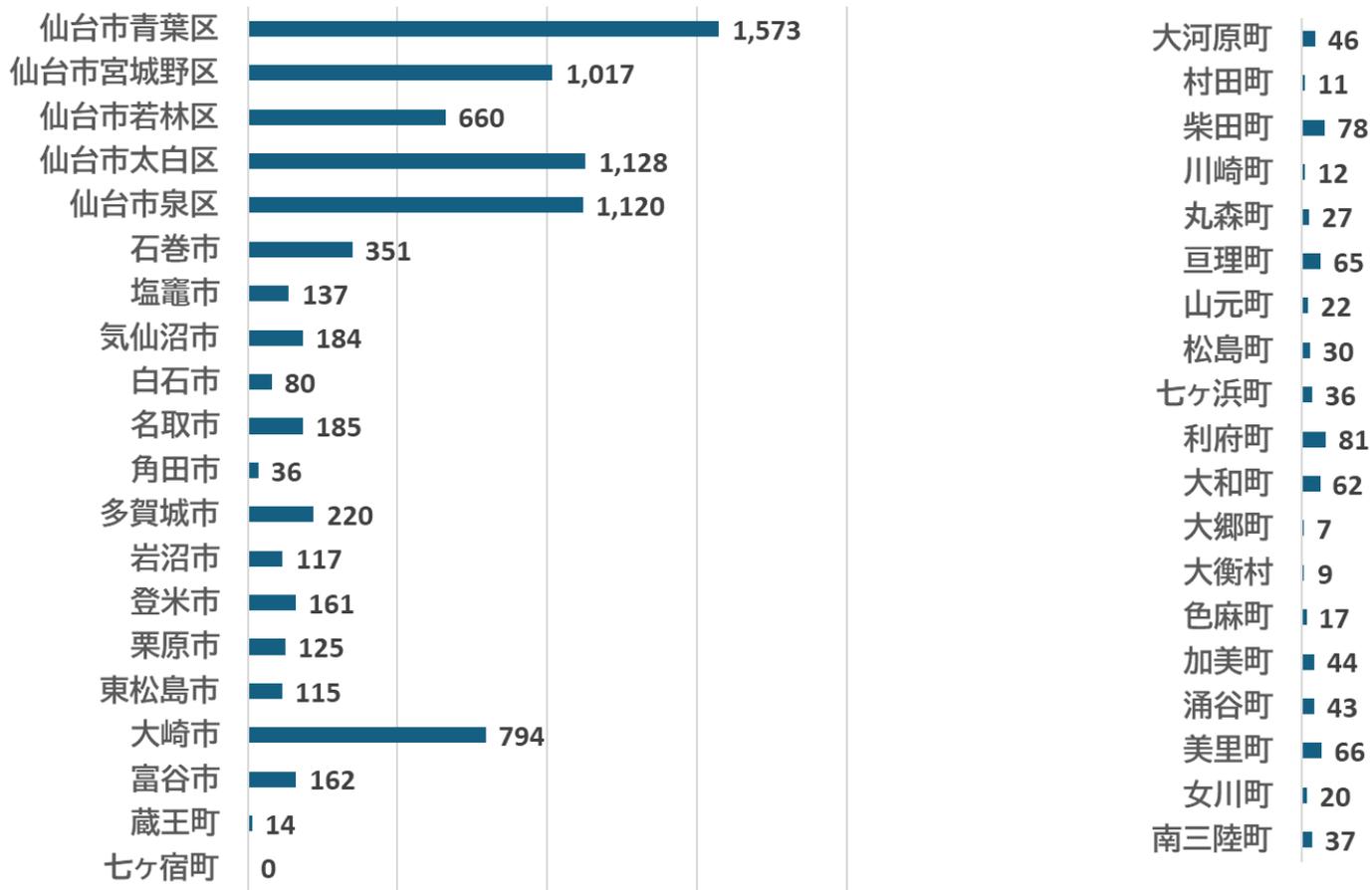
<回答者の年齢内訳>



回答者の基本情報

<回答者の居住地内訳>

(単位:件)



<浸水想定域内外の内訳(※)>



結果の概要

1. 注意情報の認知・受け止め: 今回の発表により注意情報の名称や内容が浸透(問1~4)。

- ・ 発表前に名称を認知していた人は56.7%、内容まで理解していた人は26.8%であったが、発表後は名称の認知は83.1%、内容の理解は48.5%と上昇した。また、発表前後に関わらず、津波浸水想定域内の地域の方が、認知度が高かった。
- ・ テレビから内容を把握した人が7割を超えており、注意情報発表期間中の情報収集手段として広く活用された。

2. 具体的な防災行動: 備えの内容ごとの実施状況に差があった(問5~10)。

- ・ ハザードマップ・避難経路・連絡手段の確認、寝所の頭上の整理等、自身・ご家族の安全確認や、水・食料の備蓄をしたという回答が多かった一方で、窓ガラスの飛散防止や簡易トイレの準備、感震ブレーカーの設置等の備えは、今後の普及啓発の余地がある。また、いずれの選択肢でも「地震前も今も、していない」が一定数存在するため、改めて、日頃からの備えの必要性の周知を図っていく必要がある。
- ・ すぐに避難できる態勢での就寝等の、「特別な備え」はいずれもおよそ半数が実施した。一方、津波浸水想定域内に居住する人のうち、すぐに避難できる態勢での就寝を実施していない人が33.8%と一定数存在しており、この点に課題が残る。
- ・ 注意情報の趣旨のとおり、95.9%の人が、事前避難を行わず通常通り生活したと回答している。
- ・ 職場や学校、施設等の組織的対応については51.9%が「特になし」と回答しており、事業者等における防災対応の取組を促す余地がある。

3. 社会活動への影響・混乱: 大きな混乱はなく、偽情報・誤情報にも冷静に対応(問11~12)。

- ・ 旅行やイベント、外出などについて、中止・延期したと回答した人は11.1%、買い占めを実際に見かけ、影響があったと回答した人は7.8%にとどまり、大きな社会的混乱は見られなかった。
- ・ SNS等で「人工地震」等の偽情報・誤情報を見かけた人は42.9%に上ったが、ほとんどの人は拡散することなく公的情報を確認するなど、冷静に対応した。

4. 現在の状況: 注意情報は防災意識の向上に効果。今後とも避難生活の不安解消に向けた取組が重要(問13~16)。

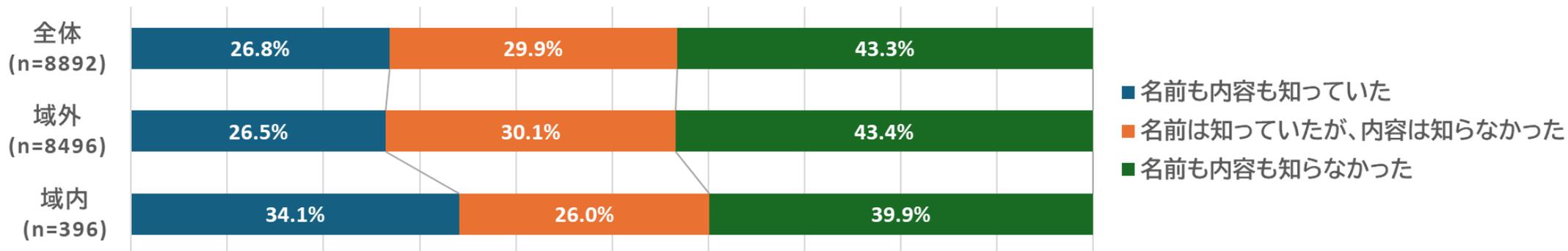
- ・ 備えを強化しようと思った人は、「強く思った」「少し思った」を合わせて77.7%で、注意情報の発表による防災意識の向上が見られた。平成23年3月9日の前震の事例と日本海溝・千島海溝地震の存在も、今回の注意報を受けて広く周知されている。
- ・ 避難生活の不安については、「水や食料が不足する」が66.0%、「トイレ・衛生環境が確保できない」が61.0%、「寒さ・暑さ対策(温度調節)が難しい」が60.0%などとなっており、災害時の適切な避難行動を促すためにも、今後とも物資・備蓄状況の周知や、避難生活環境の改善等の取組が重要となる。

1. 注意情報の認知・受け止め

問1 今回の発表前、あなたは注意情報について知っていましたか。

○ 注意情報の発表前、全体の56.7%は名称を認知していた一方、内容まで知っているとは回答した人は26.8%にとどまっていた。

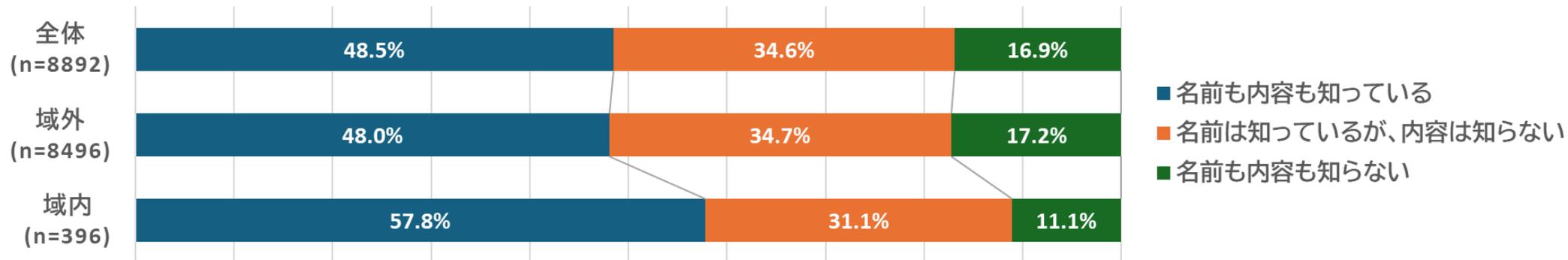
(単一回答)



問2 いま、あなたは注意情報についてどの程度知っていますか。

○ 注意情報の発表後は、全体の83.1%が名称を認知しており、内容まで知っているとは回答した人は48.5%に上昇した。

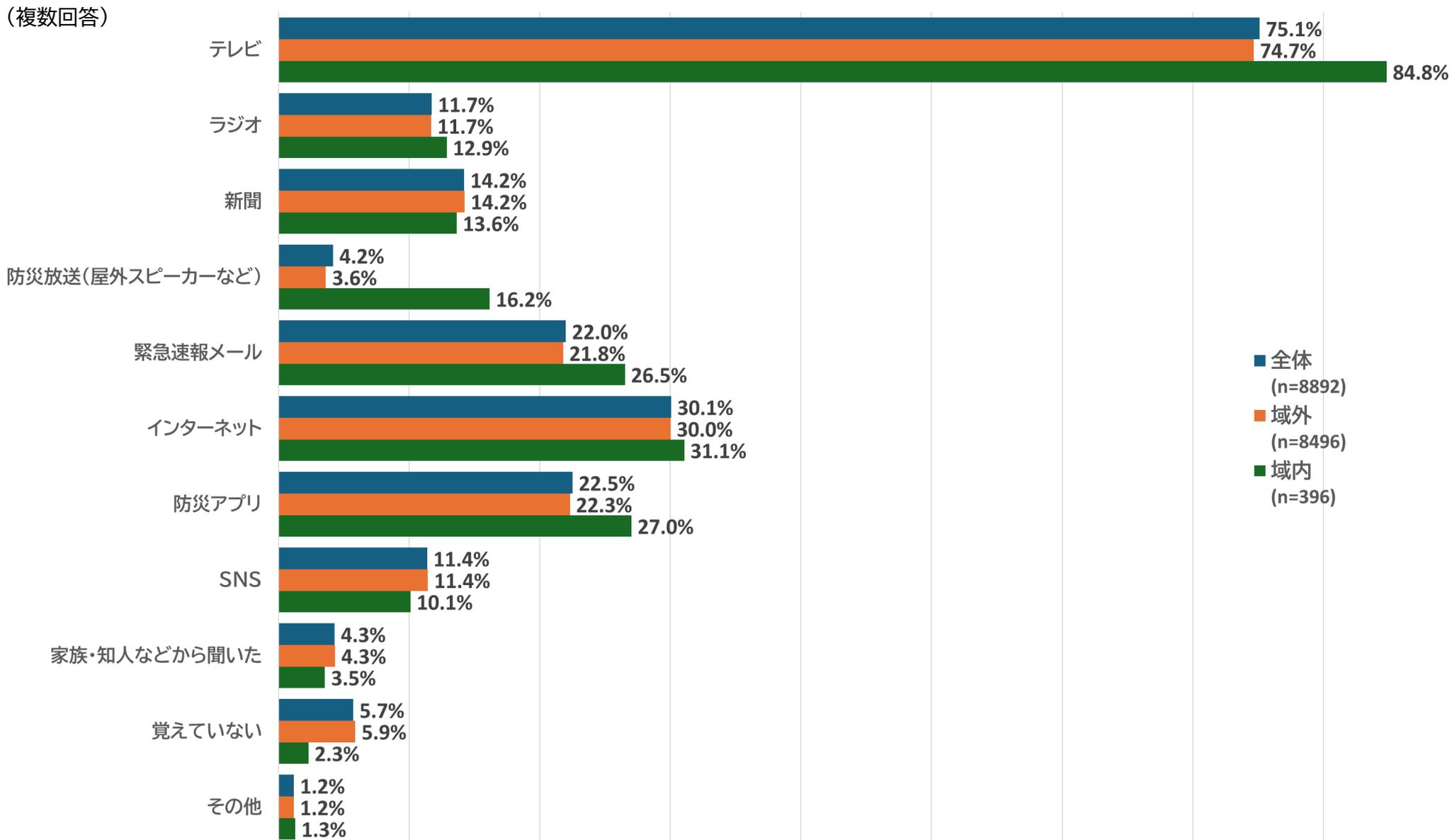
(単一回答)



1. 注意情報の認知・受け止め

問3 注意情報の発表やその内容について、あなたはどのように知りましたか。(複数回答可)

○ 回答に占める割合のうち、テレビが75.1%で最も多く、次いでインターネットが30.1%、防災アプリが22.5%、緊急速報メールが22.0%などとなっている。

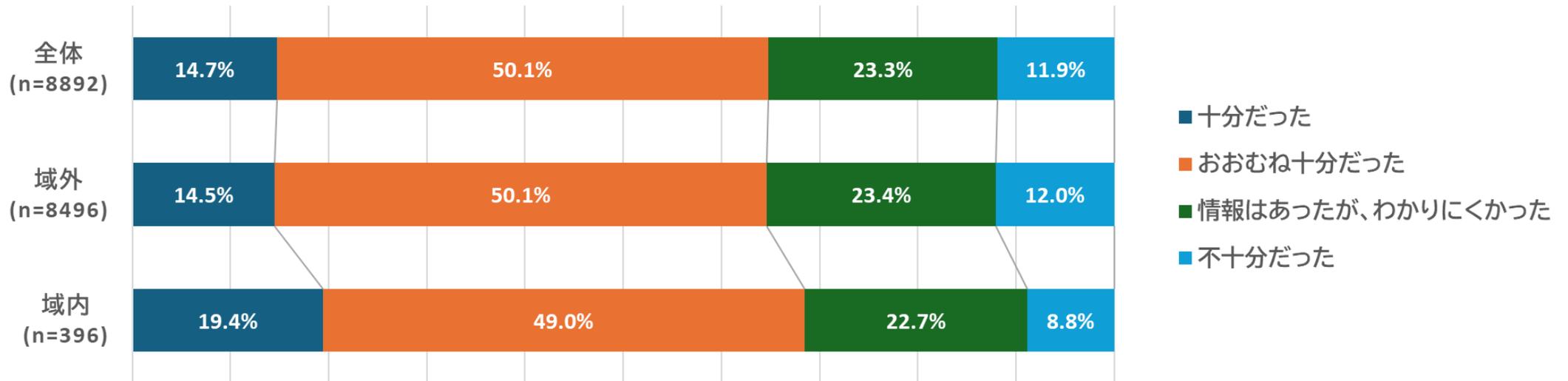


1. 注意情報の認知・受け止め

問4 今回の注意情報について、公的機関(国・県・市町村等)からの情報発信は十分だと感じましたか。

○ 「十分だった」「おおむね十分だった」が全体の64.8%に上った。

(単一回答)



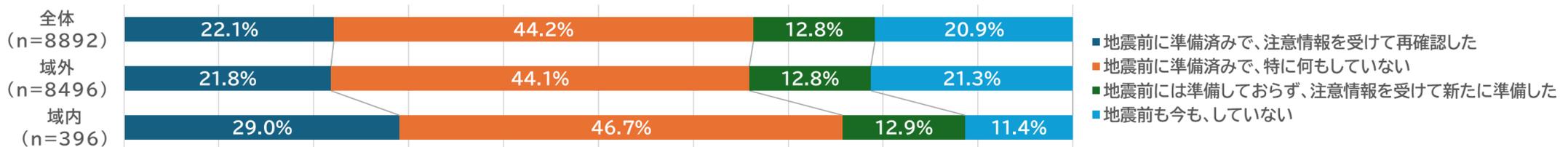
2. 具体的な防災行動

問5 注意情報では、地震・津波への「日頃からの備え」の再確認として、家具の固定、安全な避難場所・避難経路、水や食料等の備蓄、家族との連絡手段などの再確認を呼びかけています。あなたは、注意情報の発表を受けて、どのような「日頃からの備え」を確認・準備しましたか。

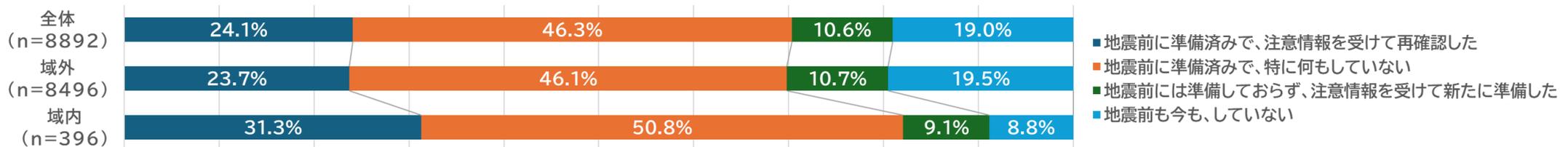
○ ハザードマップ・避難経路・連絡手段の確認、寝所の頭上の整理等、自身・ご家族の安全確認や、水・食料の備蓄をしたという回答が多かった一方で、窓ガラスの飛散防止や簡易トイレの準備、感震ブレーカーの設置等の備えは、今後の普及啓発の余地がある。

(単一回答)

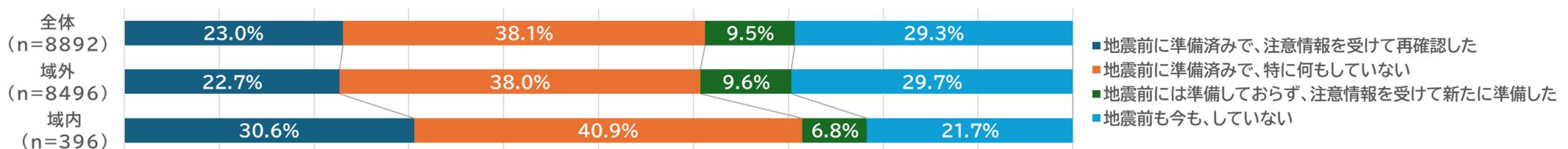
問5-1 ハザードマップで危険な場所を確認する。



問5-2 安全な避難場所・避難経路等を確認する。

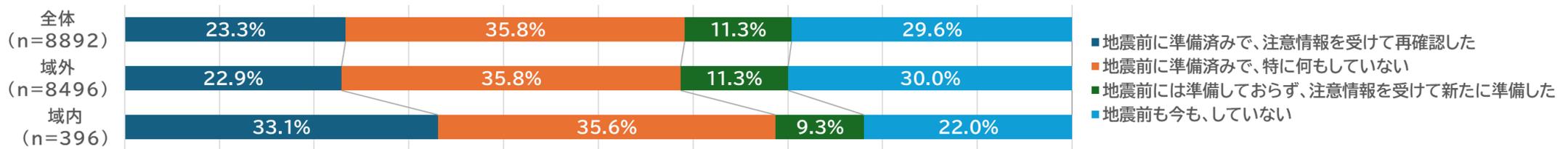


問5-3 家族や知人等との連絡手段を決めておく。

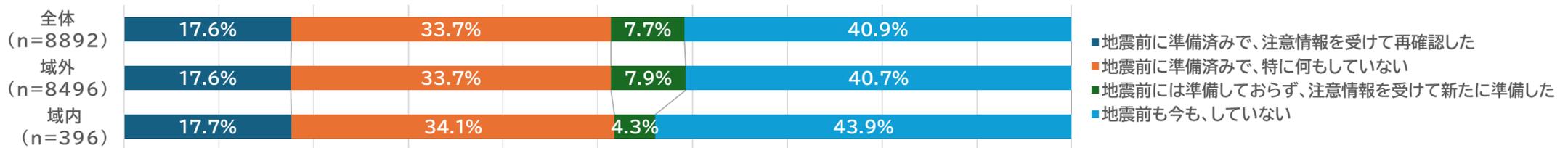


2. 具体的な防災行動

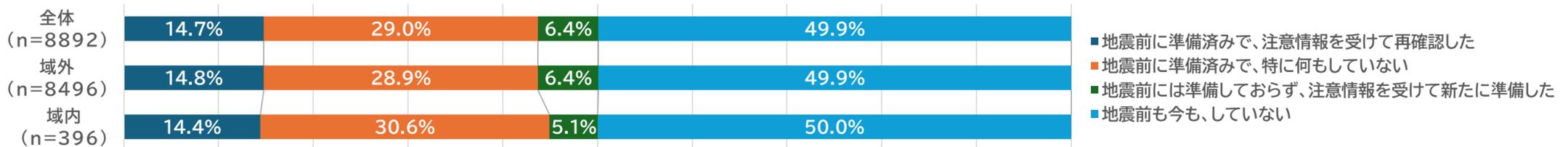
問5-4 非常持出品を準備しておく。



問5-5 火災報知器の電池切れがないことを確認する。

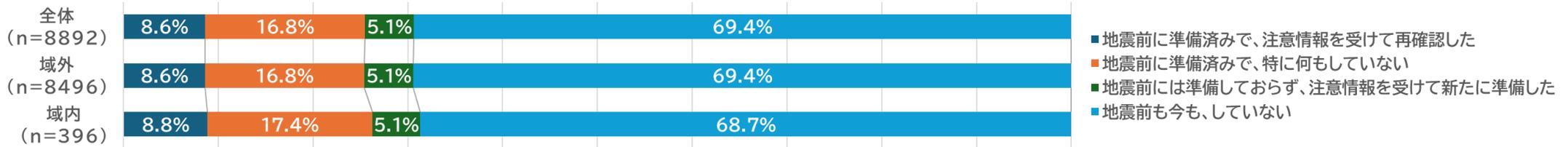


問5-6 漏電遮断器や感震ブレーカー等を設置する。

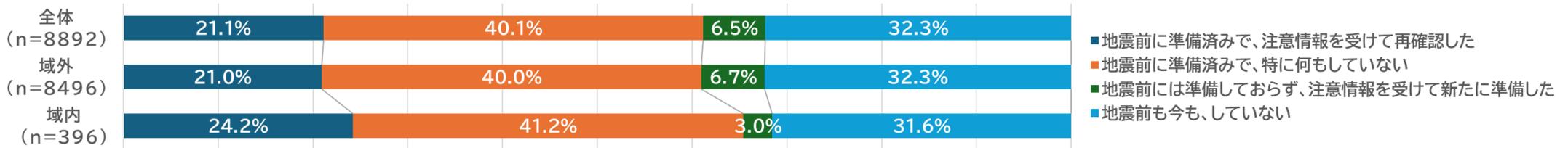


2. 具体的な防災行動

問5-7 窓ガラスの飛散防止対策をする。



問5-8 タンス類・本棚の転倒防止対策をする。



問5-9 ベッドや布団の頭上に物を置かない。

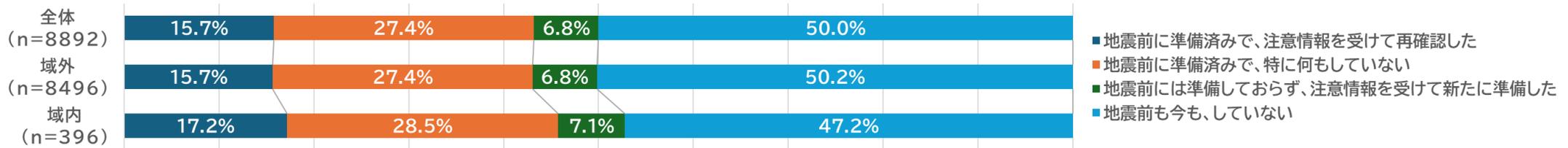


2. 具体的な防災行動

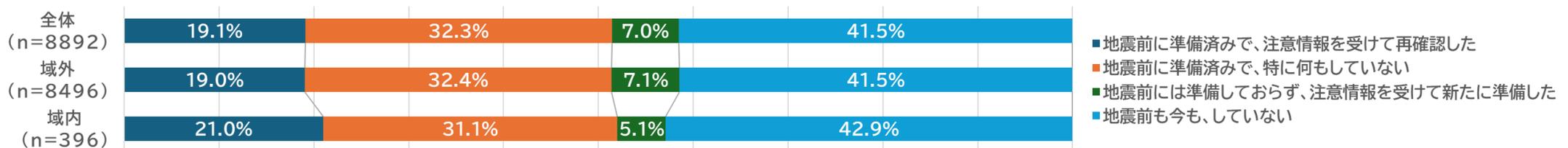
問5-10 水や食料などの備蓄を準備・追加する。



問5-11 簡易トイレを用意する。



問5-12 予備バッテリー等を準備する。

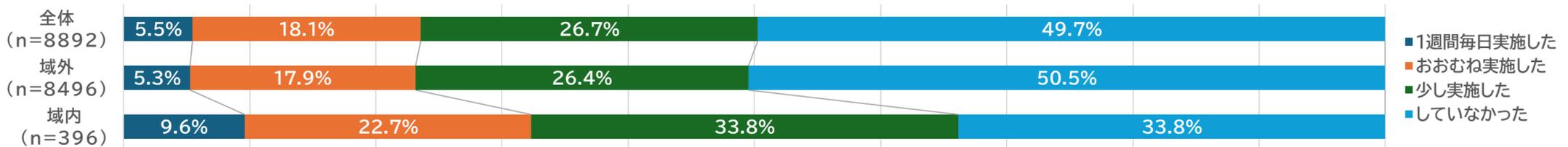


2. 具体的な防災行動

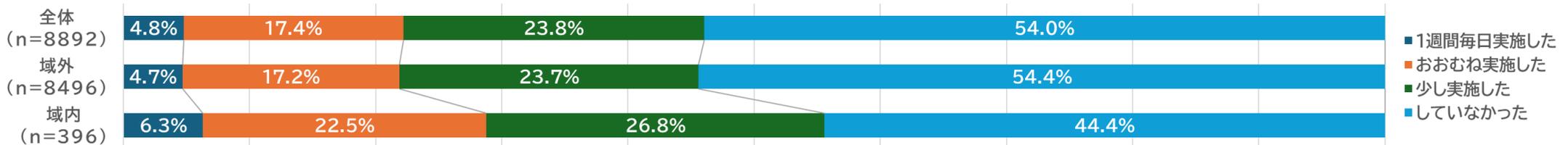
問6 注意情報では、「特別な備え」として、すぐに避難できる態勢の維持・非常持出品の常時携帯を、おおむね1週間程度継続するよう呼びかけています。あなたは、注意情報の発表期間中、「特別な備え」をどの程度行いましたか。
 ○ いずれも、およそ半数は備えを実施しており、注意情報の発表により一定程度の効果が見られたものの、さらに普及啓発を進める余地がある。

(単一回答)

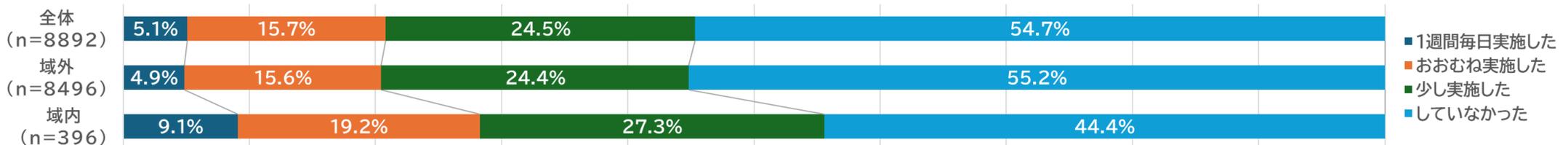
問6-1 すぐに避難できる態勢での就寝。



問6-2 外出先での、すぐに避難できる態勢の維持。



問6-3 非常持出品の常時携帯。

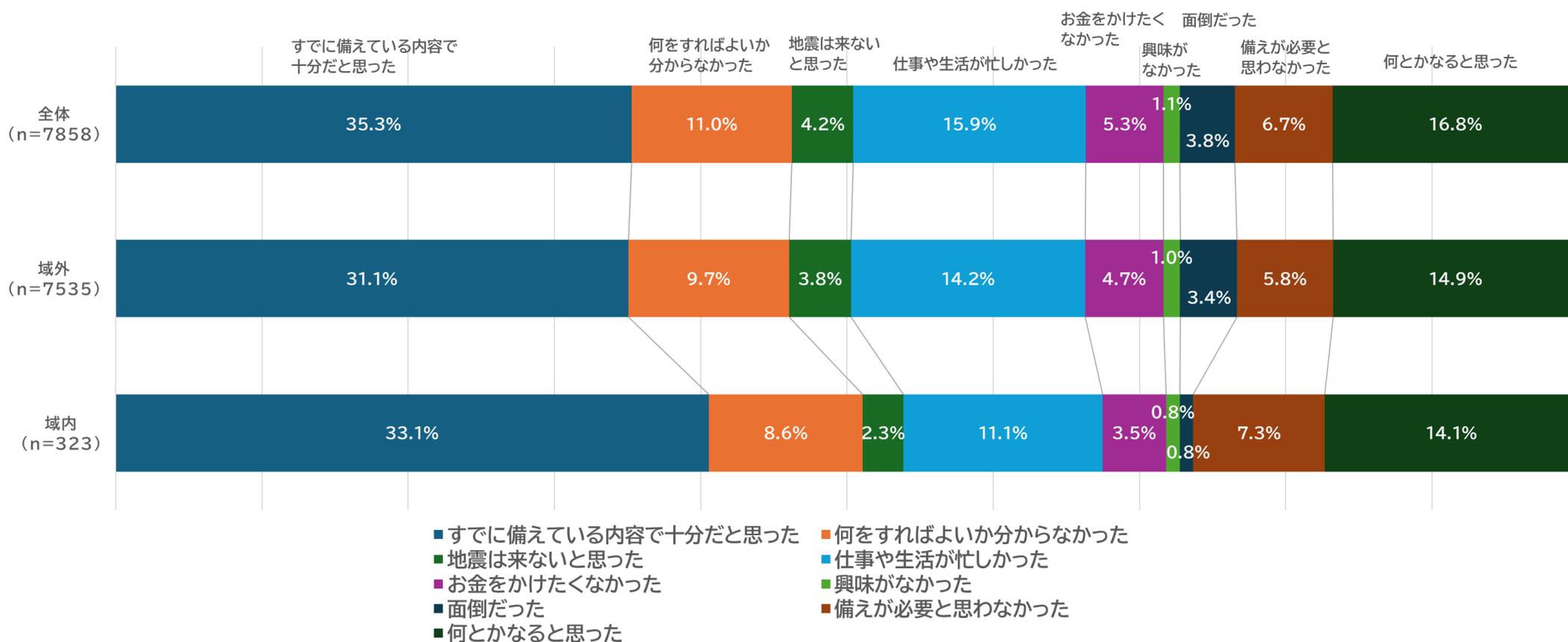


2. 具体的な防災行動

問7（問5・問6で「地震前も今も、していない」「していなかった」と一つでも回答された方にお聞きします。）あなたが防災行動を行わなかった理由を教えてください。（最もあてはまるものを一つ選択）

○「すでに備えている内容で十分だと思った」が35.3%と最も多く、次いで「何とかかなると思った」が16.8%、「仕事や生活が忙しかった」が15.9%などとなっている。

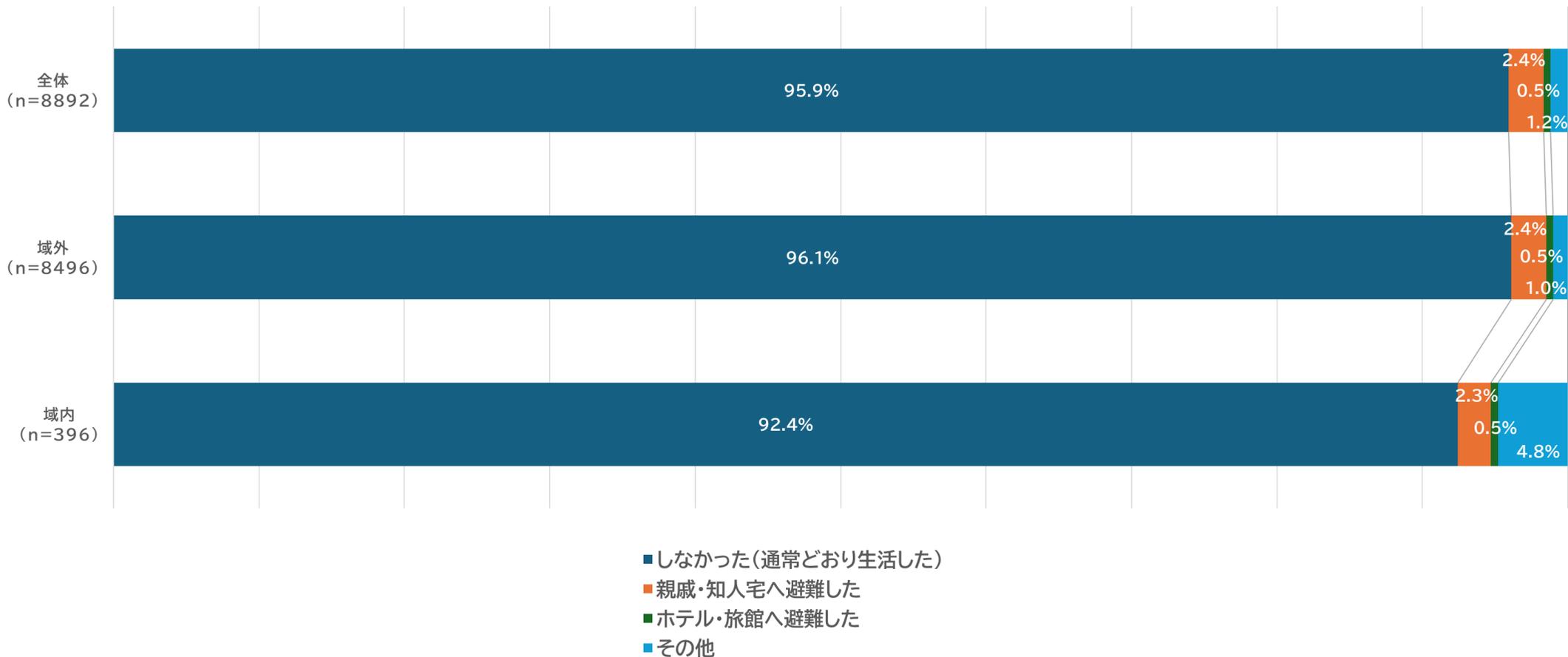
（単一回答）



2. 具体的な防災行動

問8 注意情報は「事前避難」を求めるものではありませんが、注意情報の発表を受けて、あなたは自主避難を行いましたか。
○ 注意情報の趣旨のとおり、全体の95.9%の人が通常どおりの生活を送ったとの回答があった。

(単一回答)

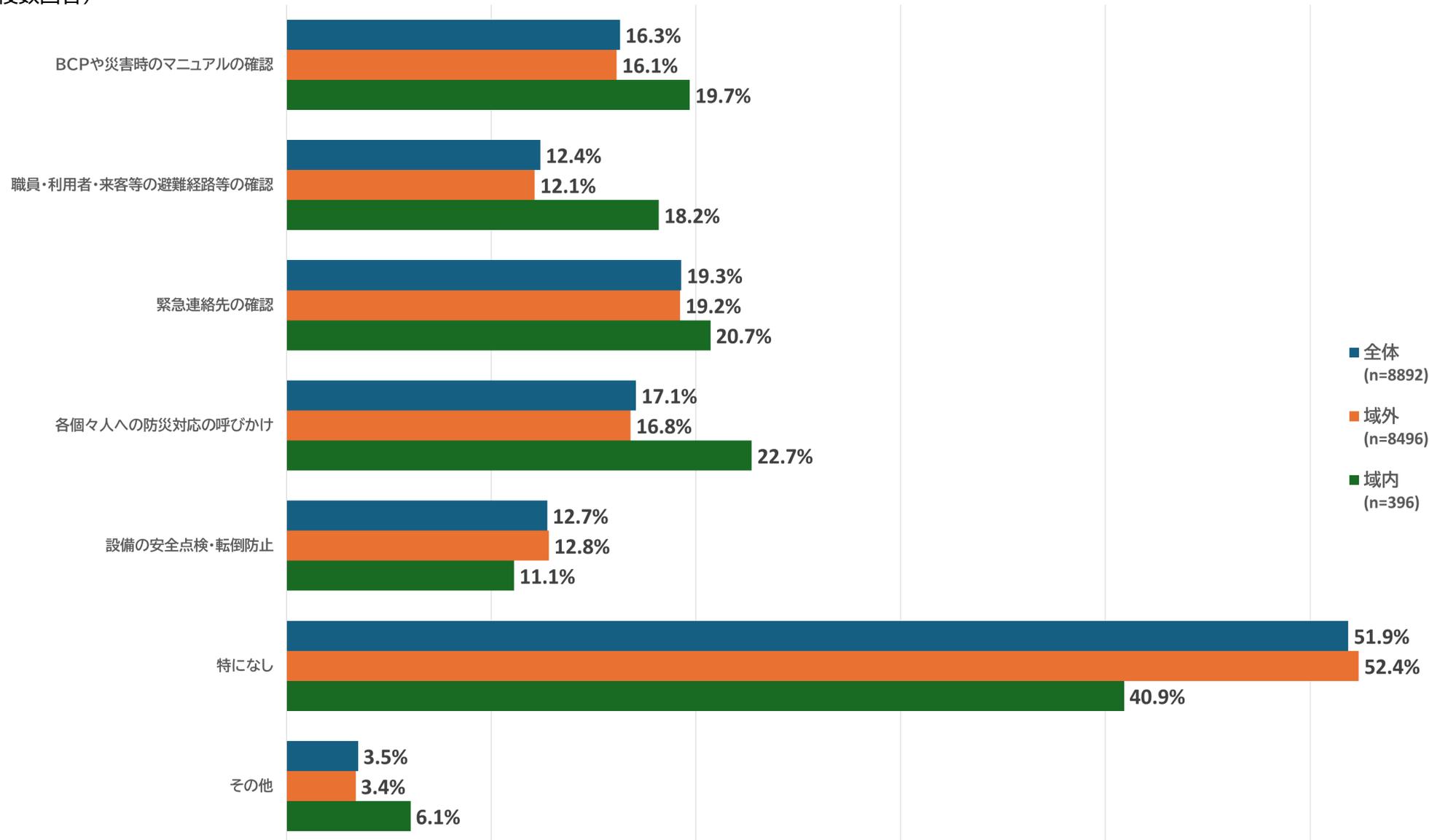


2. 具体的な防災行動

問9 注意情報の発表を受けて、あなたの職場や学校、施設等ではどのような防災対応が行われましたか。(複数回答可)

○「緊急連絡先の確認」が19.3%、「各個々人への防災対応の呼び掛け」が17.1%、「BCPや災害時のマニュアルの確認」が16.3%などとなった一方で、「特になし」が51.9%であった。

(複数回答)



3. 社会活動への影響・混乱

問10 注意情報では「普段どおり生活しながら注意すること」を呼びかけていますが、予定していた旅行やイベント、外出などはどうされましたか。

○ 「特に予定はなかった」が57.1%、「予定通り実施した」が31.7%などであった。

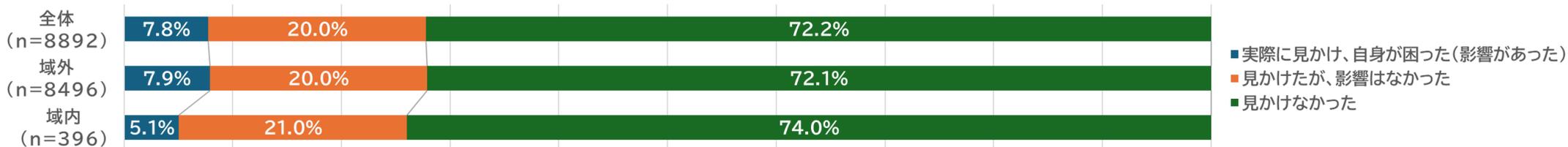
(単一回答)



問11 注意情報の発表期間中、水、食料、生活用品、ガソリンなどの買い占めや品薄の状況を、ご自身の目で見ることがありましたか。

○ 「実際に見かけ、自身が困った(影響があった)」人は7.8%にとどまった。

(単一回答)



問12 注意情報の発表期間中、SNS等で「人工地震」や「〇日に地震が来る」といった偽情報・誤情報を見かけましたか。

○ 偽情報・誤情報を見かけた人は全体の42.9%となっており、これらの情報が多くの人の目に触れていたものの、ほとんどの人は落ち着いて対応した。

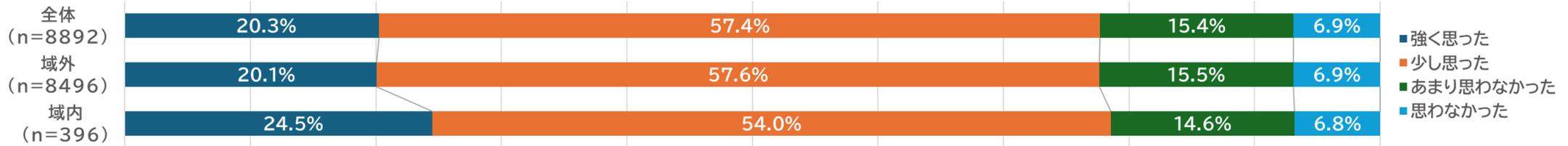
(単一回答)



4. 現在の状況

問13 今回の注意情報を受けて、あなたは地震・津波への備えを強化しようと思いましたか。
○ 「強く思った」「少し思った」が合わせて77.7%となっており、注意情報は防災意識の高揚に一定の効果があった。

(単一回答)

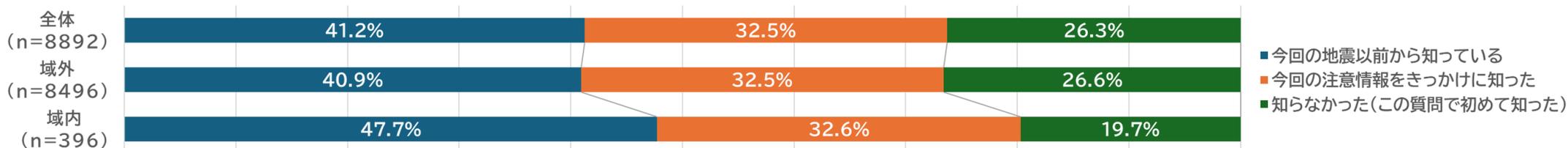


4. 現在の状況

問14 東日本大震災の2日前(2011年3月9日)にはM7.3の大きな地震があり、注意情報はこの事例も踏まえて運用が開始されました。あなたはこのことを知っていましたか。

○「今回の注意情報をきっかけに知った」が32.5%となり、注意情報の発表による効果が見られる。

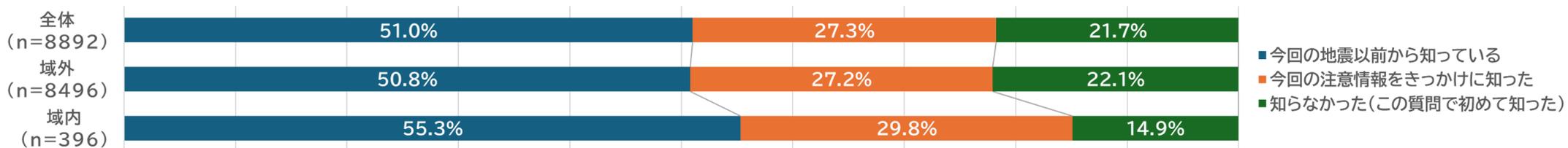
(単一回答)



問15 日本海溝・千島海溝の周辺で、大規模な地震・津波の発生する可能性があることを知っていましたか。

○「今回の注意情報をきっかけに知った」が27.3%となり、問14と同様に、注意情報の発表による効果が見られる。

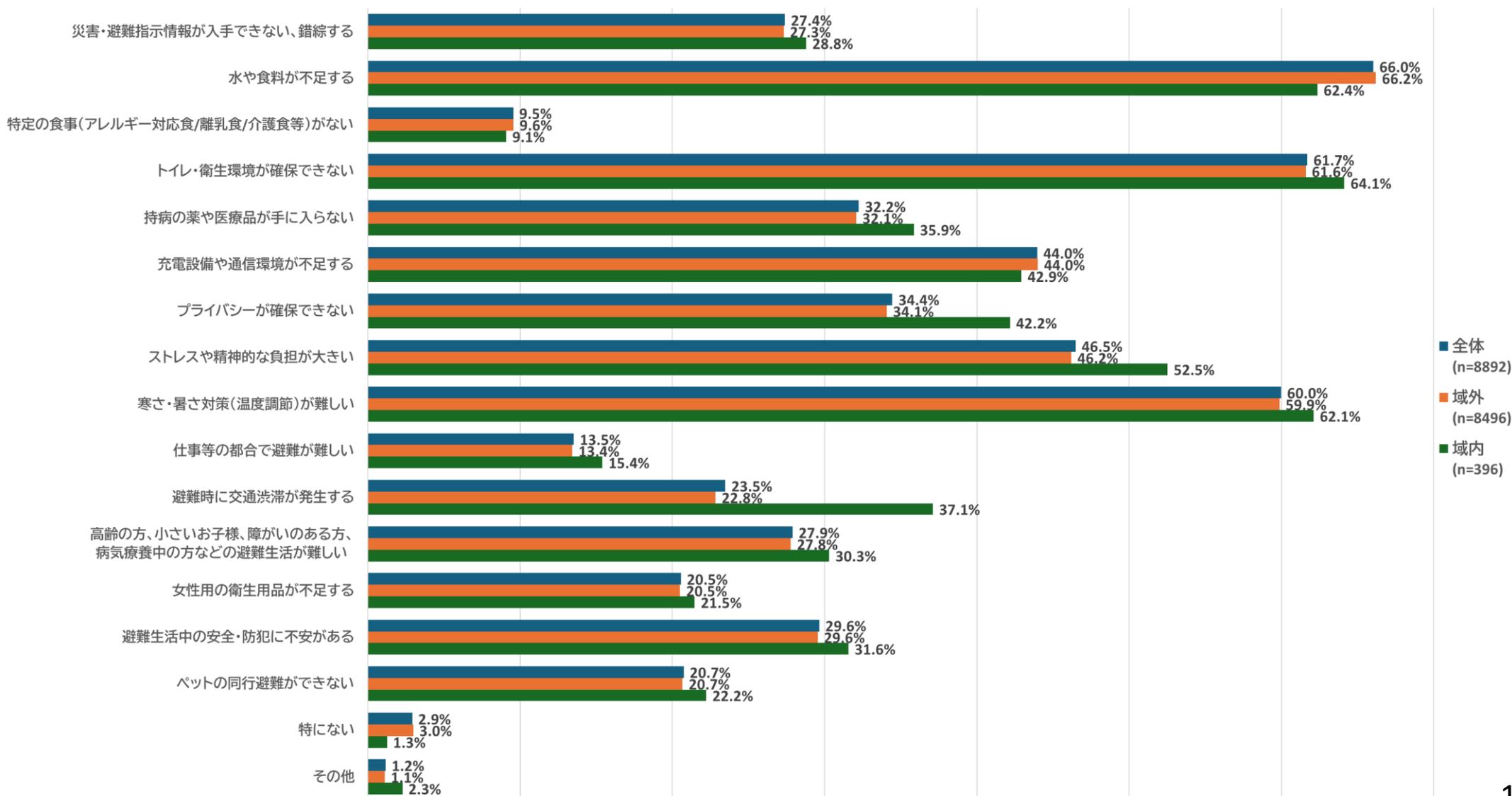
(単一回答)



4. 現在の状況

問16 大規模な地震・津波が発生した場合、あなたが避難時や避難生活で不安に思うことを教えてください。(複数選択可)
 ○「水や食料が不足する」が66.0%、「トイレ・衛生環境が確保できない」が61.0%、「寒さ・暑さ対策(温度調節)が難しい」が60.0%などとなっており、避難生活に関わる不安が多かった。

(複数回答)



4. 現在の状況

問17 今回の注意情報や防災に関して、ご意見・ご要望、お気づきのことなどがあれば自由にご記入ください。

<主なご意見の概要>

【1. 防災意識と備えの再確認】

○東日本大震災(3.11)の記憶と教訓の再喚起

- ・「災害は忘れた頃にやってくる」。常に災害に備えた生活が必要だと思った。
- ・15年前大地震を体験しながら、時間経過とともに記憶が薄れつつあります。諺のとおり、備えあれば憂いなしを肝に銘じ、今後も生活していきます。
- ・今回の注意情報で改めて気付くことが多くあった。

○具体的な備蓄・点検行動の実施

- ・とりあえず、自身の住まいに津波等の被害はなさそうなので、食料品等の確保を主にしています。
- ・東日本大震災の2日前に注意情報が有れば車に給油をしたり、携帯トイレを携帯したと思います。(中略)今回は真っ先にガソリンを満タン給油して携帯トイレを確認しました。
- ・期限が切れていたの、買い直したり、実際に食べたりした。

【2. 情報発信のあり方と受け止め】

○積極的な情報発信の必要性

- ・このような生命に関わる情報は、迷ったら発出すべきことで空振りしたら助かったと思うことが必要不可欠です、今後も同様の事象があったら迷いなく発出してください。
- ・万が一を想定しているので、今回のような発表で良いと思う。空振りオッケー。

○情報の分かりにくさと戸惑い

- ・「注意して」とか「備えを」とかの話はあったが、何かが起こった時にどうすればいいのか、という話はあまりなかった。
- ・「注意情報」がどのようなものなのかが分からなかった。避難警報とは違うのか、どの程度守るべきなのかなど説明してほしいと思った。
- ・注意情報中でも通常通りの生活と言われてもどこを注意すればいいのか戸惑いがあります。

【3. 避難における具体的障壁と不安】

○避難行動の難しさ

- ・「原則徒歩避難」と言われても、足の悪い高齢者や障害者を抱えているため、車でなければ避難できない。
- ・避難所(小学校)まで歩けなくなりつつあり、自宅待機出来る対策をどこまでやればいいのか。
- ・大地震は昼夜・季節・天候を問わずに発生します。避難車両の大渋滞を避けるため、車での避難・駐車場の確保を検討していただきたい。

○避難生活への不安

- ・ペットがいるので、避難所に避難する事を躊躇ってしまう。
- ・3.11の避難中、教室に50人もすし詰め状態でとても窮屈だった。
- ・どうしても避難所より自宅にいる方が安心だと思ってしまう。